

平成 2 1 年 1 月 2 9 日

五島地方局 局長様
(担当 道路班 伊藤圭介 様)

ふるさと自然の会
会長 小西 宗十

希少な海岸生物の保全について (お願ひ)

昨年 1 1 月、当会では、岐宿町河務の海岸で貝類を調査いたしました。その結果、10種の希少貝類と3種の希少植物が確認出来ました。近くでは道路改良工事が行われ、海岸の崖が一部壊され、希少植物のハマボウが掘り返され、海岸に捨ててありました (別紙写真参考)。

また、海岸で測量杭を見かけましたので、早速貴局の道路課へ問い合わせを致しましたところ、今回の道路改良工事では、希少種が多く見つかった海岸は工事による環境の変化はなされないことが分かりました。

しかしながら、近年全国的に、海岸の埋め立てや護岸工事で渚が急激に減少し、潮間帯上部～潮上帯 (標高差 1 m 以下) に生息、生育する動植物の減少に著しいものがあります。残念ながら、これは当県においても同じ状況です。

当県の福江島は、砂浜の海岸が多く、河務のような泥干潟は大変貴重な存在です。

つきましては、今回の調査により、河務で確認された希少種についてお知らせをさせていただきますので、河務の海岸生物の現状の把握にお役立て頂きたいと存じます。一カ所にこれほどの絶滅危惧種が生息する場所は県内でも希です。

また、当該地と環境が類似した場所には、同じ希少種が生息する可能性が極めて高いと推察されますので、貴局内での情報の共有を進めていただき、今後の公共工事におきましては、自然海岸 (渚) と古い石積みの護岸を残すような配慮を是非ともお願いいたします。

別紙に希少種とその特徴を記します。

(別紙)

岐宿町河務で見られる希少な海岸生物(希少種とカテゴリー)

<貝類>

クリイロコミミガイ(CR+EN)

シイノミミミガイ(CR+EN)

オカミミガイ(VU)

カワアイ(VU)

キヌカツギハマシイノミ(VU)

ドロアワモチ(VU)

ナラビオカミミガイ(VU)

フトヘナタリ(NT)

ヘナタリ(NT)

ウミニナ(NT)

<維管束植物>

シバナ(VU)

ハマボウ(NT)*長崎県のカテゴリー-

<紅藻類>

ホソアヤギヌ(NT)

*希少種のカテゴリー(環境省)

絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN):絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧Ⅱ類(VU):絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT):現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種



クリロコミミガイ (殻高7mm) (CR+EN)
内湾の潮間帯上部 (大潮の満潮線付近) のごろ石の下に生息。



カワアイ (殻高30~50mm) (VU)
内湾の潮間帯上部の砂泥上に生息。同所にヘナタリ・ドロアワモチも生息。



シイノミミミガイ (殻高9~13mm) (CR+EN)
内湾の潮間帯上部 (大潮の満潮線付近) の古い石積みの護岸の間やごろ石の下に生息。



キヌカツギハマシイノミ (殻高11mm) (VU)
内湾の潮間帯上部 (大潮の満潮線付近) のごろ石やヨシ群落のなかの堆積物の下に生息



オカミミガイ (殻高30~40mm) (VU)
内湾の潮間帯上部 (大潮の満潮線付近) から潮上帯の石崖・ごろ石の下に生息。



ドロアワモチ (体長3cm) (VU)
内湾の潮間帯上部の砂泥上に生息。同所にフトヘナタリも生息。(殻を持たない貝)



ナラピオカミミガイ(殻高6mm)(VU)
内湾の潮間帯上部(大潮の満潮線付近)のごろ石やヨシ群落のなかの堆積物の下に生息。



ウミニナ(殻高30~35mm)(NT)
内湾の潮間帯上部の砂泥上に生息。同所にカワイイ・ヘナタリ・ドロアワモチも生息。



フトヘナタリ(殻高35~40mm)(NT)
内湾の潮間帯上部の砂泥上やヨシ群落内に生息。カワイイやヘナタリよりも上部に生息し、コンクリート護岸に登ることもある。



シバナ(VU)
内湾の潮間帯上部の砂泥上に生育。



ヘナタリ(殻高20~30mm)(NT)
内湾の潮間帯上部の砂泥上に生息。同所にカワイイ・ウミニナ・ドロアワモチも生息。



ハマボウ(NT)
内湾の海岸の潮上帯や石崖の上などに生育する。(工事で掘り返され捨てられている)



< 紅藻類 >

ホソアヤギヌ(NT)

内湾や河口の潮間帯上部のヨシの茎(下部)
や石・泥上に生育(冬季は茶褐色)。